

「ソーシャルデザインセンター」に関するプロセスの評価について

1 概要

令和4年度、7区のSDC及びSDCに向けた検討状況について、区ごとの取組への評価を進めている。SDC創出に向けたプロセスへの評価や、被評価者（区役所職員やSDCに関わる区民）への丁寧なアプローチ、評価を通じた被評価者への気づきの提供など新たな評価手法により今後の方向性を定めていく。

2 スケジュール

7月	キックオフミーティング、各区事前アンケート及び個別ヒアリング
8月	全体ワークショップ（7区の職員による、各区SDCの価値の言語化） 多摩区ワークショップ（多摩区SDCメンバーでのロジックモデル作りによる活動の振り返り）
9～11月	各区ワークショップ又はヒアリング（SDCの価値の言語化）
12月	「まちのひろばフェス2022」（7区の評価の方向性共有と市民意見の聴取）
1月	全体共有（7区での振り返り） ～ 報告書作成

3 評価の過程で見えてきた成果（全体ワークショップの中での意見より）

◆人と人、人と地域のつながりが生まれている

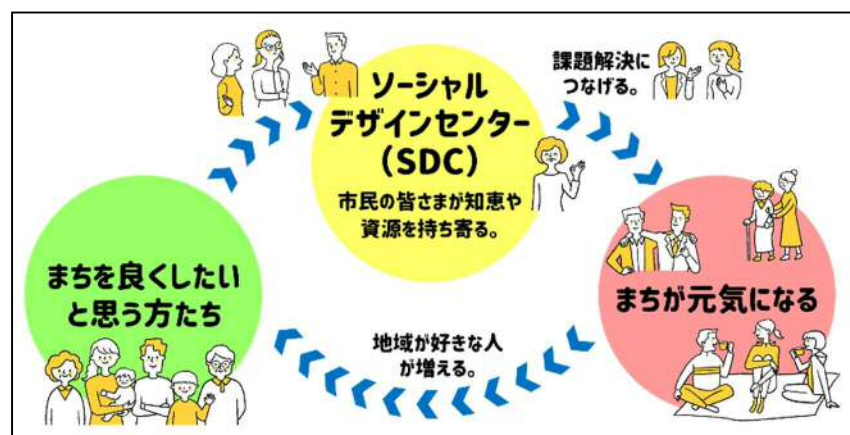
- ・これまで地域に関わりがなかった人が、地域に関わるきっかけや関心を持つようになっている。
- ・学生や若い世代の参加が、彼ら自身の成長や地域の活性化につながっている。
- ・区内の様々な人のつながりが広がっている。

◆多様な主体の連携による市民創発が生まれている

- ・スモールスタートで、まずやってみようとして様々なプロジェクトが立ち上がっている。
- ・集まった人ができることを持ち寄って企画を実現したり、クラウドファンディングなど新たな手法にチャレンジしたりしている。
- ・一つの主体では実現できないことが実現できている。
- ・町会や企業から相談・期待が寄せられていて、実際の協働事業につながっている。

SDCが生み出す
地域の好循環 →

好循環のサイクルが
少しずつ動いている



4 評価の過程で見えてきた課題（各区の悩み）

- ・持続可能な運営に向けた自主財源の確保や運営の手法については、どうあるべきか。
- ・区域レベルのプラットフォームであるならば、場所等の経費含め、市がある程度費用負担すべきか。
- ・SDCと行政の関係性、区役所としての関わり方を明確にしていく必要がある。
- ・SDCに関わる人のモチベーションを維持するにはどうしたらよいか。
- ・様々な考えの人が関わるので、考え方の共有や理念の継承が大変。
- ・地域の中でのSDCの認知度が低い。